

「2024年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学文学研究科 修士課程2年 坂本 孟

私は今回の短期留学を通じて、自ら積極的に体験することの重要性を学んだ。まず、語学の面に関しては、実際に現地の人と話してみることによって自分の語学力に不足している部分を再認識することができたと感じる。特に、正しい発音や聞き取りの能力に関して、改善が必要だと痛感した。また、単語知識や文法事項に過度にとらわれすぎるあまり、瞬時に受け答えができないこともあり、これまで実践的な会話練習ができていなかったことに気づかされた。こうした反省点を受けて私はクラスの学生と会話したり、先生方に積極的に質問したりすることによって少しでも改善できるように努力した。会話では、日本語で話すときと同様に過度に文法を意識せず、相手に分かりやすく理解してもらえるように伝えることを目標に取り組んだ。その結果、最後の会話テストでは先生に自分の言葉で話すことができ、ある程度会話に対する能力を身につけられたと感じる。三週間という短い間ではあったが、語学学習に対する考え方を改めることができ、この学びを日本に戻ってからも継続し、より実践的な中国語能力を身につけられるように勉強に励んでいきたいと思う。

次に、中国社会への理解という面においても今回の留学は有意義だったと考える。その中で印象に残っているのは、香港のいたるところに中国の国旗や香港の中国返還を記念するポスターが掲げられていたことである。数年前に発生した香港の自由をめぐる対立が沈静化した直後であったため、過度に中国と香港の連携強化を宣伝しているように感じられた。将来的に香港がどのような社会になっていくのか、今後も注目していきたいと感じる。また、私は香港だけでなく、澳門と深圳にも足を運び、異なる発展をした社会に触れることができた。特に深圳は巨大企業のオフィス街があったり、新しいビルや住宅地の建設が数多く進められていたりするなど、都市全体に勢いがあるように感じられた。文化の面に関しても、香港や澳門では広東語を話す人々が多数を占める一方で、深圳では普通話での会話がよく耳にされ、異なる文化を形成している印象を持った。今後の研究活動においても単に文献や史料だけを見るのではなく、過去の遺跡や現地の人々の価値観に触れることで自らの視野を広げていきたいと考える。

以上から、私は自ら積極的に体験することによって語学の面や社会理解につながられたと振り返る。これらの経験を今後の学びに活かしていきたい。